

八木保育園の考え方と実践

2012年7月2日 セーケイ・イロナ先生の実地指導研修にあたって

7/3 改訂版

未来を創る

園長 清流祐昭

子どもに関わるとは、未来を創ることです。保育に限らず、あらゆる分野において、子どもに関わることは、良きにつけ悪きにつけ、我々の社会の未来を創っていることにほかなりません。保育は、未来を託された仕事です。保育に関わる私たちには、目の前の子どもたちや保護者に対する責任と同時に、広く社会一般、人類の未来に対する責任がある、と私は考えています。



	未来を創る		園長 清流祐昭	1
	八木保育園の保育			
1	保育環境とは・・・？	時間・空間	ぞう組（3・4・5歳）担任 濱中智華	2
2	幼児にとって遊びとは		ぞう組（3・4・5歳）担任 山本英津子	3
3	異年齢混合保育の3年間		きりん組（3・4・5歳）担任 田中綾子	5
4	異年齢混合保育の魅力		副園長 清流綾乃	6
5	乳児の生活	育児担当制・流れる日課	ゆめ組（0・1歳）担任 高井美保子	7
6	わらべうた		うさぎ組（1・2歳）担任 久保田美幸	8
7	八木保育園の給食について		調理師 南 千秋	10
8	八木保育園に6年間お世話になって		卒園児保護者 浦 篤志	10

八木保育園の保育

1 保育環境とは・・・？

ぞう組（3・4・5歳）担任 濱中智華

保育環境ってなに？どんなものがある？
広い場所でたくさんおもちゃがあったら遊ぶ？

“遊んでいる、ただ遊んでいるだけ？”

子ども達は遊びの中でたくさんのことを学び、育っている。
育ちを助けているものが遊びの中にある。

その遊びに必要なになってくるものとは？

《人的・物的環境》 時間 空間 道具



ぞう組 病院ごっこ

時間 途中で中断されることのない時間の確保
夢中になって遊び込める時間の確保。

十分に遊び心も満たされた子どもは、使ったものを大事に丁寧に片付けその次の生活・活動へ意欲的に主体的に喜びを持って向かうようになる。

空間 自分の家にいるような安心して過ごせる園・保育室

室内の環境… 役割あそび・構造あそび・世話あそび・机上あそび・描画コーナー
やりたいことがやりたい時に自分で選んでできる。

保育室に『フリースペース』がある。

大人が子どもの予想される活動を考える以上に子どもの想像力は無限である。

室内の2～3割のフリースペースは何も用意されていないようで、子ども達の想像力を刺激する空間である。

思いついた遊びを自由につくり出せる空間の可能性がそこにはある。



ぞう組 レストラン

道具 年齢・興味に合った道具・遊具の提供

それが子どもに合ったものであると自主的に遊び始める。

遊びの中でしたいことをあらゆるものを使って選んでする自由や喜びが生まれ、遊びがより深まりを持ったものになる。

様々な道具を使い遊ぶ姿を見ているとその子どもの興味が分かる。

一方的でなく、多面的に見ることができ子どもへの理解が深まりよりその子ども自身を知ることができる。

得意なことや苦手なこと、課題が見えてくる。
その子どもに合った援助や発達の助けができる。

環境を考える際、目の前にいる子どもを観察し、今まで述べた「時間」・「空間」・「道具」を準備する。

準備した上で、子どもの姿(遊ぶ or 遊ばない)を観察する。

反省・考察点が出てくるのでそこからまた新たに環境を整える。

目の前にいる子どもは日々変化していくので大人も敏感に感じ、環境を整えていく。時には子ども達と一緒に作っていく。

保護者から離れた子どもたちにとって、保育者や友だちも大きな環境である。

この2つは、直接的に大きく影響を受ける存在であると思う。

幼児になると、同じ気持ちを共有できる存在が大きな喜びになる。

「一緒に〇〇したい！」と思える他の存在は活動に活気を持たし、自分の気持ちを伝えたいと思う自らの発信力はコミュニケーション能力の高まりや感情の育ちを感じる。

様々な人間関係の中で、自分を知る・他人を知るという難しいことを葛藤しながら日々経験している。

その中で、共に感じた喜びが生きる力となり豊かな人間関係の元、



ぞう組 アイスクリーム店
豊かな人生を歩んでいく人間へ…

一人ひとり今ある全ての環境のもと、日々育っていると感じ保育をしている。

2 幼児にとって遊びとは？

ぞう組（3・4・5歳）担任 山本英津子

なぜ自由遊びの時間が大切か？

◇昔

群れ遊びをよくしていた
かくれんぼ・缶けり・めんこ・ベーごま
ちゃんばら・ままごと
木片を使って遊ぶ物を自分でつくる

手伝い：水くみ・風呂わかし・
薪わり・弟妹の面倒
学校の勉強より親の手伝い



◇現在

1人遊び、又は少人数で遊ぶ
テレビ・ビデオ・ゲーム
男児は公園でゲーム
ままごと…少人数すぎて役になれない

していることは少ない
(スイッチ・ボタンを押す)
手伝いをしていない子もたくさんいる



自然と社会性が発達していた
 手先が器用・手加減を知っている
 多方面から物事を考えられる
 我慢強い、忍耐力がある
 人の気持ちが分かる
 親の大変さも分かる
 物が少ないのでめったに与えられない
 じゃあ作ろう！創造性が豊かである

社会性が発達できる環境が少ない
 不器用、練習できる機会がない
 手加減が分からない（経験不足）
 我慢できない、すぐにあきらめる
 相手がどうして怒ってるのか、泣いて
 いるのか気づくことに鈍感
 親にしてもらって当たり前、してくれ
 ないと文句を言う（手伝いをしないから）
 出来上がった物が与えられがちなので
 創造性が乏しい



- ・ どんな子どもになってほしいか？親や保育者の願い◇
 - 自立して欲しい
 - 自ら考え行動できる子になって欲しい
 - 場面に応じてリーダーシップのとれる子になって欲しい

このことは学校や社会に入っていっても求められるものである。子どもはこのようなことを遊びの中で最も多く経験を積みながら体験し、一つずつ自分のものにしていく。

現在の子供達はこの成長できる遊びを経験できる機会が少ない。この子どもにとって、最も重要な遊びという活動を確保・提供してやりたい。

「就学前の年齢の、最も大切で最も発達させる基本的活動である。」

一般的に遊びと聞けば、小学校などでの授業と授業の合間の休憩時間のような余りの時間とイメージされやすい。しかし、幼児期にとっての遊びの時間は食事・排泄・睡眠と同じくらい大切な時間なのである。

「遊び」の教育的意義

- ・ 喜びの追求
- ・ 人格の形成にとってたいせつな要素
- ・ 遊びを通して賢くなり、手先が器用になる
- ・ 後々に出会う様々な問題を解決するときの基礎を経験、学習する
- ・ ごっこ遊びで役になりきり、役として自分の感情を表現することで、人格をまげるような要素がつけられることを予防できる
- ・ 他人との適応・協力・相互コミュニケーションを練習する
- ・ 言葉や話し方を豊かにできる機会がたくさんある
- ・ 仲間関係を作る、感情を豊かにすることができる

「遊び」は子どもの側から見れば自主学習。保育士の側から見れば環境学習、環境教育である。

今、保育の現場で求められていること

体育教室、英語教室、スイミングなど、大人からさせられて、知識をつめこみ学習するような経験より

も、家庭で経験できることの少ない「遊び」という時間がいかに大切か。

子どもの将来という長い先を見通した時、遠回りとも思われるこの「遊び」こそが、誰しも大人がこうな
って欲しいと思い、願う、子どもの成長の一番の近道といっても過言ではないと私たちは身を持って感じ、
確信している。

3 異年齢混合保育の3年間

きりん組（3・4・5歳）担任 田中綾子

345歳児と一緒に生活しています。つまり36ヶ月の月齢の幅のある子ども達が、同じ空間で生活し
ています。

八木保育園では、1度幼児クラスに入ると、卒園までクラス替えはなく、同じクラス・同じ部屋で3年
間を過ごします。担任も、原則として変わりません。

子どもにとっては、年長が卒園し、年少が入ってくるというだけの大きな入れ替わりのない集団の中で、
安心して生活が出来る。

新しいゲームのルールなどを1度年長に伝えると、子ども同士の関わりの中で大人が介入しなくても、
ずっと伝承されていく。

大人にとっても、子どもとの信頼関係が深まり、1人1人の子どものことを心情も含め、より深く理解
でき、1人1人にあった対応が出来る。



ぞう組

〈具体例の一部分〉

そのクラスでの先輩にあたる在園の子ども達が、新しくクラスに入ってきた3
歳児や新入園児のことをリードしている。

・朝の登園時、なかなか保護者と離れられない友だちに対し、「一緒に手つない
で中いこか?」「一緒に用意したろか?」と、声をかけにきてくれる。

・朝の支度時に、3歳児の手を引き「タオルはこっちやで」「コップはこの中ね」
と具体的に、自信を持って教えてあげている姿が頻繁に見られる。

・ケンカをしている友だちがいた時、年長児が仲裁に入り「これ、貸してほしかったん?じゃあ貸してっ
て言ってみたら?」と、まるで大人のようにそのトラブルを解決することもよく見られる。

このような経験をしてきた子ども達は・・・

・自分たちを助けてくれる、年長児に憧れを持つ



・年長児は、その憧れや頼りにされることが自信になっている



・その自信が様々な活動への意欲的な取り組みにつながっていく



・自分がそのクラスの先輩になった時、小さい子を助けてあげようとする

その他にも…

36ヶ月の幅のある子ども達が生活しているため、年齢別のクラスでは出来ないと思われがちな子ども達が、スムーズに自分らしく生活できています。

345歳児と一緒に生活をするので、成長の過程がよく分かります。年齢別クラスでは、出来る子、出来ない子で判断してしまいがちです。けれど、異年齢保育では、1人1人の発達の段階としてとらえることが出来るのです。

保育者は一つの方法だけでなく、様々なパターンの援助方法を考え、ひとりひとりに応じた対応を見つけていっています。



ぞう組

4 異年齢混合保育の魅力

副園長

清流綾乃

八木保育園の子ども達は本当によく遊ぶ。新入園の子どもは、遊び方を知らず、初め、圧倒されたたずんでいるが、先輩に導かれ次第に上手く溶け込んでいく。五月、六月と、多様な遊びが、子どもから子どもへと伝承されていく。たくさんの仲間とするあそびほど高度で面白いからルールをこまやかに伝える方も、授けられる方も真剣だ。そして、半年もすると水を得た魚のように活気づいていく。

異年齢混合保育は、森林にたとえるならば照葉樹や落葉広葉樹林。多種多様な植物が共生関係にあり、一本、一本、の樹の四季の営みが循環することでゆたかな土壌がゆっくりと形成されていく。森は明るく根方まで日が差すので植生が実に豊かである。

日本の教育の年齢ごとのクラスは一般的であるので喩えるまでもないが、杉や檜の単一林の姿に反映されるところだろう。勿体ないことだ。



遊びの中で子どもが、どんなことを経験しているだろう

か・と注意深く観察する時、子どもたちの感覚は、私たち大人の想像を遙かに超えて鋭敏であり、彼らは、生活環境が多様であることの醍醐味を日々、刻々と全身で甘受しているように思えてしかたがない。

異年齢混合クラスが一番の魅力は、子ども達にとってに、自分より少し大きな、しかも、多様な人格の先輩との生活は、職人が師匠と共に暮らして、その後ろ姿や、ふるまいから技を、奥義を自分のものにしていくようなあり方で、上手く遊ぶための技術を、生活のルールを、社会性を、相互扶助の振る舞いをスムーズに身につけていける事だと感じている。これほど優れた幼児教育の方法があるのか！

子どもだけでトラブルを解決している様子にも度々出会える。年長児に限らず、2歳児の間でも言葉で何とか解決している現場に立ち会えた時、この保育を知り得た喜びが内側から湧いてくる。お念仏も 相続していくもの、保育も人として育てられ、自立して生きてゆく手立てを、大人から子どもへ、子どもからさらにこどもたちへ、伝承していくことだと思う。

マイバ保育園と幼稚園の保育実践をモデルとして12年、マイバの精神をこつこつと惜しみなく伝承すべく、当園に足を運んで下さる神戸コダアイ芸術教育研究所の小林純子先生に感謝の意を表すためにも、地域の方々へ公開していく機会を重ねていこうと思う。



きりん組

子どもの最善の利益を保障するための具体的な保育の実践が、一番後回しにされている現実に危機感を覚えている。ここでの保育を広く公開していくことは、物言えぬ幼い子ども達に代わっての異議申し立てでもある。卒園していった子ども達のため、これから生まれてくる子らのためにも「砦」として残しておかなければと思う。

5 乳児の生活

ゆめ組(0・1歳)担任

高井 美保子

育児担当制

乳児のクラスでは、排泄・食事・睡眠にかかわることは必ず決まった担当の保育士が行っています。特定の子どもを特定の保育士が見ることを「育児担当制」と言います。世話をしてくれる大人が決まっているということは、まず子どもの情緒を安定させます。また発達段階や心理状況もよく把握できて、丁寧に接してあげられるので、子どもも習慣をきちんと身につけやすいです。



そら組 おむつ交換

例えば、4月に入園した8ヶ月の男児は今、抱かれて離乳食を食べていますが、食事前に口と左右の手をタオルで拭いてもらいます。初めは大人が「左手を拭くよ」と言葉をかけて手を持って拭いていましたが、今は左手を拭くと自ら右手を出してくれるようになりました。毎日同じ保育士と同じ手順で食事をするので、小さくても習慣が身につけてきます。

一人一人を尊重して育児をすることで子どもも愛着を示し、安心して担当の保育士に育児をゆだねられています。そしてその中で自分のできることを大人に協力してくれる行為が増え、その積み重ねが自立へつながっていくのです。

流れる日課

育児担当制をとり丁寧な育児をしても、それぞれの子どもが秩序のないばらばらな生活をしていたのでは、お互いに安全で幸福な時間を過ごすことはできません。不必要に待つ時間があったり子どものするこ

とが中断されたりしては、遊びにも集中できず、情緒も不安定になります。



にじ組 食事と睡眠が並行しています 一日のある時間帯をのぞくと、一人の子どもは食事を終えて寝ている、別の子どもは食事をしている、さらに他の子ども達は遊んでいるという光景が見られます。それぞれの生活リズムをもとに日課が立てられているので、子どもによって食事の時間も違ってきます。

子ども達は自分のご飯を食べる順番が分かっているので呼ばれるまで落ち着いて遊んでいます。遊んでいる子は「今日の給食は何?」「いいに匂いやな」と食事コーナーをのぞきにくることもありますが、イライラして遊びが手につかないということではありません。自分のしたい遊びをしながら食事をととても楽しみにしているのです。子ども自身が見通しをもって過ごせているのです。

育児担当制と流れる日課を行うことで、私たち保育士もゆとりを持って、育児をしている子どもに集中し、一人一人の成長や発達段階を捉えて必要に応じた援助ができると思います。情緒が安定している子どもは自ら育児に参加してくれるようになり自立へとつながっていきます。

6 わらべうた

うさぎ組（1・2歳）担任 久保田美幸

コーコハ トーチャンニンドコロ	ここは、父さんに似ているところ
コーコハ カーチャンニンドコロ	ここは、母さんに似ているところ
コーコハ ジーチャンニンドコロ	ここは、じいちゃんに似ているところ
コーコハ バーチャンニンドコロ	ここは、ばあちゃんに似ているところ
コーコハ ネーチャンニンドコロ	ここは、姉ちゃんに似ているところ
ダイドーダイドー こちょこちょこちょ	大道 大道※ こちょこちょこちょ



ゆめ組 0歳児

※「人の道理を外れることなく、まっすぐ生きるんだよ」

参考「わらべうたあそび研究会」 <http://fun.ap.teacup.com/wak22/55.html>

わらべうたには、昔からの親御さんの子どもへの愛情が込められています。

「この世の中で あなたが一番大切よ」

その思いが幾人もの人々の思いとともにうたい継がれ 今、私たちの手元に届いています。

子どもは、してくれる大人の顔を見つめ その声に耳を傾け、触れられた事の心地よさを感じ、眼差しを向けてくれた人の愛情を受け取ります。

反応は、さまざまです。どんな風を感じてくれたか 私たちは、子どもからの答えを待ちます。微笑む子、首をかしげる子、「もういっかい」と人差し指を立てて、思いを伝えてくれる子。話せなくても会話は、成り立ちます。

- ・・・「うれしかった？」
- ・・・「ちょっとびっくりしたかな？」
- ・・・「もう一回？ いいよ」

私たちもその思いに共感し、通じ合えたことに喜びを深く感じながら大切にその思いに答えます。より一層の愛情を込めて。子どもは、わかってくれたうれしさと喜びで満足した微笑みをみせてくれます。こうやって大人への信頼を、人間への信頼を深めて行くと思っています。



うさぎ組 1歳児

愛された子は、自分を愛せる子どもになる。自分を愛せる子どもは、人を愛せる子どもになる。これからの日本の子どもたちには、自尊感情の高い、様々な人を愛せる子どもになってほしい。そんな思いも込めています。見つめること、聞くこと、触れられることから音楽教育ももう始まっています。

そして、少し大きくなると子どもたちは、仲間とわらべうた遊びをします。

子どもが遊びを通して学び、成長することは、心理学、教育学からも立証されています。仲間とわらべうたで遊ぶことを通して子どもたちが学び取ることは、たくさんあります。

- ・日本民族の習慣や風土、思いが遊びを通して自然に伝わります。
- ・ルールや順序を守ること。



きりん組 345歳児

・協力すること。 みんなであるから出来るもの。みんながいるから楽しいことを知っていきます。

・判断力、敏捷性を養う。負けないために楽しみながら力をつけます。

・語を増やし、発音を明瞭にする。日本の風土、習慣、方言あらゆることをあつという間に覚えます。

・仲間への思いやりを持てるようになる。鬼は、一人で孤独です。でも鬼が回ってきてその思いも体験し違う立場の人への思いやりを持てるようになります。

そしてわらべうたは、子どもが歌い継いだものなので音域が子どもにあっていて子どもの声帯を傷めず、また無伴奏なので聴く力が育ちます。楽しんでうたっている子どもの声は、とても美しいです。

わらべうたは、日本人の習慣、風土、思いを、そして人として生きていくのに必要な人への信頼を、自分自身の尊さを、音楽の楽しさを、社会性、倫理性、秩序性を日本人の私たちの声にあった方法で伝えてくれます。

7 八木保育園の給食について

調理師 南 千秋

本園・調理師2名（1歳児～5歳児）と分園・調理師1名（0歳～2歳児）の2園に分かれて3名の調理師（内2名保育士経験有）で給食を作っています。（他の職員の補助有り）

両園とも給食室が狭いので、本園で1歳～5歳の給食を調理し分園に運んでいます。分園では離乳食のみを作っています。



ぞう組 345歳児

市の献立を基本に、園独自の献立もいくつかは作り、おやつも出来るだけ手作りにしています。

乳児は完全給食、幼児はご飯を持参していますが、月に1度ご飯給食の日があり三色丼（右写真）やバラ寿司など、冬には温かい丼ものと大きなすし桶で作り毎月工夫し子ども達にも好評です。

食材は八百屋と近くの有機農法園から無農薬の野菜を購入し旬の野菜、季節感のある給食を心がけ朝一番の調理は出汁を取る事から始まります。出汁をしっかり取っているので給食に砂糖は不使用です。おやつは出来るだけ手作りで、胡麻クッキー・ロール

ケーキ・おにぎり・饅頭・蒸し芋・農園で撮れた蒸しトウモロコシなどです。

食器・スプーンは子どもが食べやすく扱いやすい物を揃え、離乳食の食材は特に気をつけ育ちに合った物を保育士と相談しながら調理しています。

園で自園給食を作るようになり早10年が過ぎようとしています。本園の給食室は狭く通路を声をかけ合って交差する状態ですが、少しずつ設備も整い協力して調理しています。1年目は本園のみ、2年目からは分園も自園調理になり、毎年少しずつ改善され進歩してきたと思います。分園への搬送の時間に合わせて調理、その後の食事時間、食べ終わる時間の指定など保育士にも協力してもらいながら給食をすすめています。保育士をしていたときにいた時には気がつかなかった、食材のこと調理。衛生面・日々勉強でした。「今日の給食美味しかった」「今日のおやつ何」と言ってくれる子ども達の笑顔を喜びにし楽しく保育園に来ています。

今日より明日少しでも進歩出来る毎日を過ごしたいと思います。

《特別寄稿》

8 八木保育園に6年間お世話になって

卒園児保護者 浦篤志

「ついに卒園なんだなあ」

息子、駿太郎が0歳の時から6年間通った八木保育園を卒園する日。卒園式に向かう真新しい小学校の制服を着たわが子を見ながら、あっと言う間に過ぎていった保育園生活を思い返していました。

厳粛な卒園式が始まり、一人一人に卒園証書を渡していきます。卒園式もクライマックスに近づいたころ、園長先生より訓話がありました。その一節より八木保育園の先生方がどんな思いで保育をされてきたのかを、深く知ることができました。



「子供たちの手には一人に一つずつ、種を握りしめて卒園します。今きれいに咲いている切花はすぐに枯れてしまいます。しかし、種は地面に植え、水をやり肥料をあげると芽が出て花が咲きます。やがて咲いた花は種を付け、またそこから花が咲くのです。これからの長い人生で大きく咲かせるための大切な種を、私たちはみなさんに渡しました。それをしっかりと持って必ず大きな花を咲かせてください。」と。

八木保育園は見栄えの良い大人受けする行事はありませんでした。見栄えのする行事。これはきっと見栄えのする大きな花の事なのでしょう。先生方からたっぷりの水と肥料をいただき、大きく咲いた花。明日になると、しおれてしまう花。そして来週からまた新しい花を咲かせるために、水と肥料でおなががいっぱいに。

駿太朗に「八木保育園に教えてもらったことって？」て、聞いてみました。

「小さい子を優しくしましょう」

「S君とケンカにならない方法は？」

「みんなで仲良く遊ぶ方法は？」

当たり前のことばかりかもしれませんが、これからの人生を歩んでいくうえで、とても大切な事ばかりです。



時に保育園に行きたくない駄々をこねる日もありました。お友達と上手に遊べない。仲間外れになってしまう。と。でもこれも、人間関係を学ぶ第一歩。避けて通れない大切な対人スキルです。それを一人一人の個性を大切にしていただけ八木保育園で経験できることは、親としてとても安心でした。駄々をこねる我が子を見ながら、にやりとするほどです。今で良かったと。

八木保育園からいただいた、多くの贈り物と、数多の困難をともに乗り越えていただけたことに感謝しています。八木保育園で人生最初の6年間を過ごせて本当に良かった。

駿太朗は、固く握った手中の種からどんな花を咲かせるのでしょうか？ 一年生の今、手中の種は少しずつ少しずつ成長しています。見事に咲いたその花を手を持って、再び八木保育園を訪れる日が来ることを期待せずには居れません。
(駿太朗の父親)

※園長より 卒園児のお父さんに、原稿を特にお願ひしました。園長として最後に綴ろうと思っていたことを、さらに深く書いて下さいました。八木保育園の種が、しっかりと手渡されたことを確認できて、これ以上付け加えることはありません。ありがとうございました。



八木保育園の考え方と実践

セーケイ・イロナ先生の実地指導研修にあたって

2012年7月2日 発行 著者 八木保育園保育者集団
2012年7月3日 改訂 編集 清流祐昭（八木保育園園長）
発行 八木保育園
672-8016 兵庫県姫路市木場 1203-1
079-246-5060 FAX 079-245-9914

研究用資料です。許可無く複写・上映はご遠慮下さい。 Printed in Japan